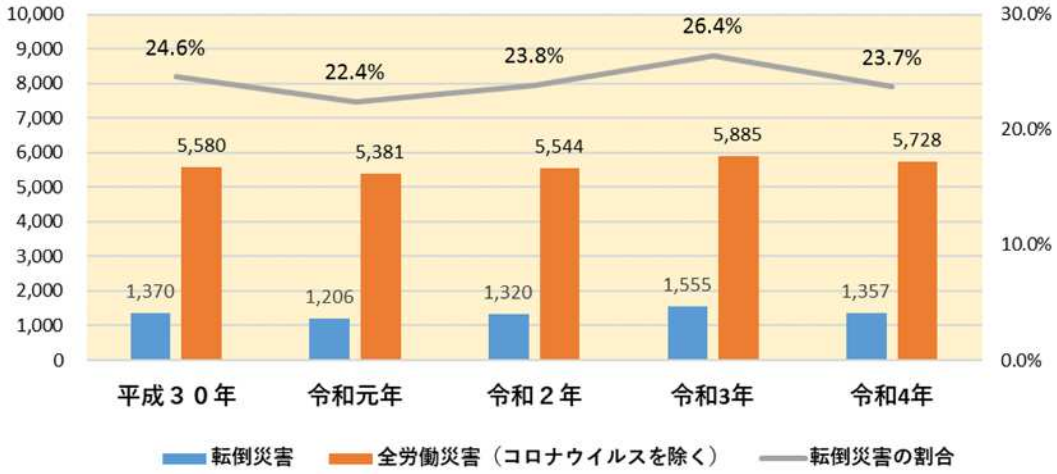
STOP！
転倒災害
FUKUOKA 2023
（2023.6月-2024.2月）

転倒災害は最も多い労働災害で、**全体の約２０％強**、**６０歳以上の高年齢者**の比率が**約５０％**を占め、この防止対策が不可欠な状況です。

● 転倒災害の発生状況（福岡県）

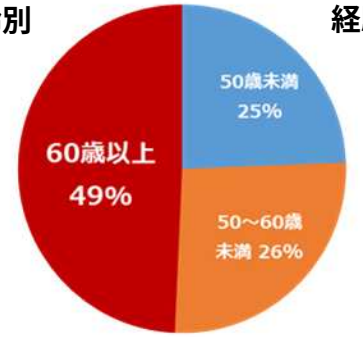
令和４年の**福岡県**における**転倒災害**の発生件数は**１,３５７件**と、前年と比較して減少しているものの、過去５年間でみると、緩やかに増加しているといえます。また、**転倒災害**は**全労働災害**の**２０％強**を占めています。



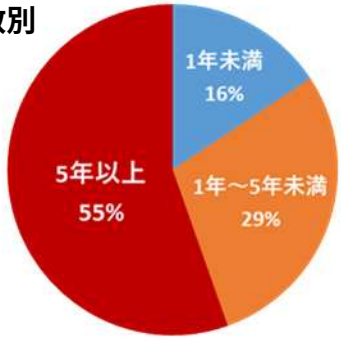
●転倒災害の特徴

６０歳以上の**高年齢者**の比率が**約５０％**を占め、**経験年数**が**５年以上**の労働者が被災する割合も**５０％**を超えています。また、**被災者の６０％以上**が**１か月以上の休業**を余儀なくされています。

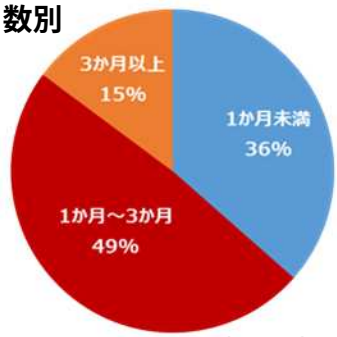
年齢別



経験年数別



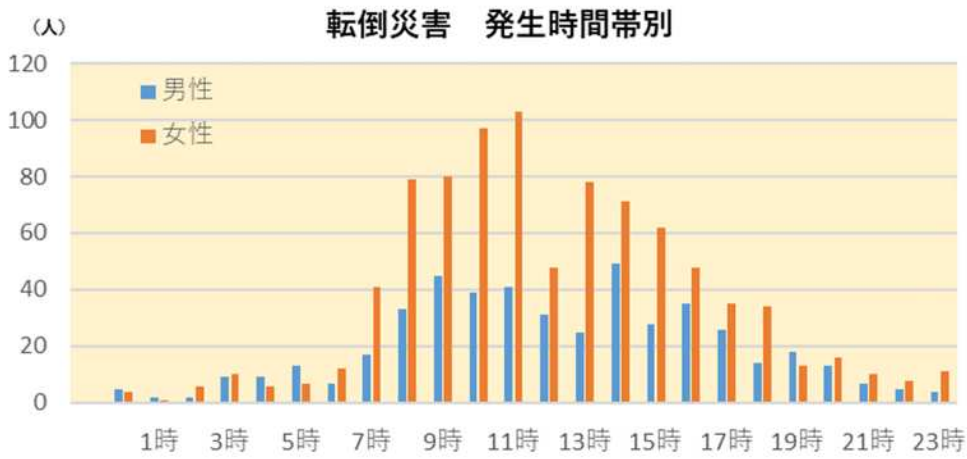
休業日数別



【資料】労働者死傷病報告(令和4年)

●転倒災害の発生時間帯

発生時間帯は**午前１１時台**が最も多く、次に**１０時台**、午後は**１３時台**に多く発生しています。



●転倒災害の種類と主な原因

滑り

〈主な原因〉
○床に水や油が飛散している
○ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている
○床が滑りやすい素材である

つまづき

〈主な原因〉
○床面の凹凸や段差がある
○通路等に荷物や商品などが放置されている。
○自分で思ったより足が上がらない。

踏み外し

〈主な原因〉
○大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。
○階段、通路、作業場が暗い。

●転倒災害防止対策のポイント

転倒災害を防止することで、安心できる作業となり、作業効率の向上が望めます。

○床面の汚れ(水、油、粉等)を取り除く
○床面の凹凸、段差等の解消
○手すり、滑り止めの設置
○滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行

○歩行場所に物を放置しない
○足元が見にくい状態で作業させない
○時間に余裕をもって行動(作業時間の適正化)

○作業に適した靴の着用
○職場の危険マップの作製による危険情報の共有(危険の見える化)
○転倒危険場所にステッカー等で注意喚起(転倒危険個所の見える化)

●転倒災害防止のためのチェックシート

	セーフティチェック項目	✔
1	通路、階段、出入口に物を放置していませんか	□
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	□
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	□
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	□
5	作業靴は、作業内容に適した耐滑性があり、かつ、サイズが合うものを選んでいますか	□
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	□
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などを標識などで注意喚起していますか	□
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	□
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	□

●高年齢者の安全衛生対策

エイジフレンドリー助成金(令和５年度分は今後正式発表される見込み)

エイジフレンドリー補助金は、６０歳以上の高年齢者を雇用する中小企業事業者を対象に、職場環境の改善に要した費用の一部を補助します。
昨年度は、(一社)日本労働安全衛生コンサルタント会に委託され、申請受付期間は令和４年５月１１日から９月３０日までした。

厚生労働省

＼職場の安全を応援する情報発信サイト／
職場のあんぜんサイト

https://anzeninfo.mhlw.go.jp/
各種情報発信をしています。

福岡労働局・労働基準監督署